

問いに正対する

校長 武井 正明

昨日の放課後の質問教室で、以前本欄（5/6「形ではなく『中身』」）で触れた菊池寛の「形」が、今回のテスト範囲になっていることを知った。

その質問教室で、「中村新兵衛はどんなことがわかったから後悔したのか「形」「実力」「敵」を必ず使って30字以内で書きなさい」という問題があった。

質問してくれた彼女は「『〇〇を使って〇字以内で』というのがわからない」ということであった。条件付きの、しかも文を自分で作って答えるのは難易度が高い。わからないことをわからないと言える。その気持ち、正直でひじょうによろしい。

私はこう答えた。

まず、〇〇を使って、という条件はまず無視する。「新兵衛が、どんなことがわかったのか、だけを考えよう」と言った。

一言で言うと何か。それは「鎧の威力が想像以上であることがわかった」ということだ。そこに「形」「実力」「敵」を入れていくと「鎧という形によって、敵は自分の実力以上の脅威を感じる。」（29字）という感じで、それなりの文になる。

この問題の模範解答は「敵は、新兵衛の実力ではなく、形を恐れていたのだということ」となっているが、「〇字以内で」という問題は、こんなに完璧に答える必要などないということを経験した3年生の皆さんに、念押ししておきたい。また100字であったら8割の80字以上書いていけば問題なし。空欄にせず、書くということが大事。だから、この答えのみを丸暗記するというのは、別の問いに対しての応用が利かず、決していい勉強法とは言えない。

私は教員になってからも、先輩の先生方に、再三注意、指導されてきたことがある。

それは「問題文をよく読みなさい」「問いに正対しなさい（正面から向き合う）」だ。

「問題文をよく読む」とは、「出題者が解答者に何を求めているかを深く読み取りなさい」ということである。「問いに正対しなさい」というのも、答え方に振り回されるのではなく「問いが、あなたに何を訊いているのかを深く考えなさい」ということである。

だから皆さん、今夜出来ることは、まだまだありますよ。

今一度、プリントやワークブックの問題文に注目してみてください。

知識を問う勉強には、暗記することは重要です。暗記は知識の基本だと思います。

ただ、思考力を問う勉強は、暗記ではできません。

問題が、何を求めているのかを、冷静にゆっくり丁寧に、深く考える事こそ大事です。

今夜の総仕上げは、そこを意識してやってみてください。問題文の見方が変わりますよ。

さあ、もうひと踏ん張り!! 頑張って、明日終わった時の解放感は格別ですよ!!